

服の停留所

―集積に着目した都市型産業建築の可能性―

Keywords

問屋建築 都市インフラ アパレル
モノ 問屋 スケール 循環型



DZ21021 金山 哲也

1. はじめに

ここ数十年の現代社会では、デジタルが急速に発達したことで、効率化を求める大量消費社会は加速し、ありとあらゆる過程が消失あるいは簡略化されている。しかし、その本来あるはずだった過程に存在価値はないのだろうか。過程や経過が剥奪され製造物やインフラといったサービスを享受するだけの私たちは、背景となる文脈から派生するコミュニティや街並みの要素が失われているのではないだろうか。

本研究ではブラックボックス化された卸売業に着目し、かつて賑わいを誇っていた問屋街について調査を行う。

2 研究背景

2.1 服飾業界の現状

衣類の国内新規供給量が年間81,9万tであるのに対し、その約9割に相当する年間78.7万tが使用後に手放されている。その内、家庭から手放された衣類の約66%が廃棄・焼却として、1日に約1200t近くが処分されている。それらを問題視しリサイクルやリユースの動きは数多く見られるが、日本の小売市場で売られている衣類の約98%は海外から輸入されているため、国内で既製品としての衣類をどう循環利用するかが重要となっている。

2.2 繊維・衣服卸売業の衰退

日本の各都市では、物流を担う卸売業者の集積地が形成されてきた。卸売業では、1990年代から小売店が卸売業を通さずメーカーから直接仕入れる「中抜き」の拡大、グローバル化の発展、実店舗を持たないオンライン販売が容易となった変化が大きく、特に繊維・衣服卸売業では衰退し廃業・撤退する業者が現れ、繊維問屋街や地方卸商業団地では空洞化が生じている。

2.3 卸売業の存在価値

私たち消費者は、物品に関して、直接購入する小売店とブランドとしてのメーカーにしか目を向けない。そのため、問屋といった卸売の存在は消費者にとって抜け落ちている。そんな、大衆にとって存在を感じない問屋が

密集して成り立つ問屋街では、どのような生活や都市が形成されているだろうか。

3. 研究目的

繊維問屋街で生じている空洞化を受け、大衆にとって社会的な接点の少ない卸売業に対して、かつての賑わいとコミュニティの再起を図る。

- ①廃業する問屋業者の新たな雇用
- ②問屋の不良在庫を回収し在庫管理を促進
- ③復職業界の循環を可視化

4 対象地域

4.1 地域概要

対象敷地は、東京都中央区馬喰町・横山町。古くから繊維業を中心とした問屋街が形成され、日本最大級の繊維問屋街として栄えている。

横山馬喰町は江戸後期の1792年に19軒、1827年に62軒の問屋登録があり、1851年には144人が問屋組合名簿に名を連ね、すでに当時から問屋集積の立ち位置を確立していた記録がある。

4.2 馬喰町・横山町の歴史

馬喰町は江戸で唯一、馬の売買が認められた場所で、江戸の馬場であり、牛や馬の仲買商人である博労が集まる町となる。

「明暦の大火」後、幕府の直轄地の管理を行う「関東郡代」の屋敷（役宅）が、「江戸城」内から「浅草橋」の南詰付近（図左奥付近）へ移転してきた。ここでは「公事¹⁾」などが行われたため、「公事」で上京した人が投宿する「公事宿」が発展、江戸最大の旅館街となり、江戸後期になると、一帯は江戸土産として小間物、化粧品、煙草などを扱う商店・問屋も軒を並べるようになっていた。横山町は、浅草御門に向かう本町通り両側の町屋で、街道筋にあたっていたこと、隅田川、神田川などに囲まれて水利の便がよいこともあり、小間物、薬種、書物などの各種問屋が軒を並べる問屋街として発展した。



図1 江戸各所図会 馬喰町馬場（長谷川雪旦）

4.3 明治以降

横山町は明治に入ってから、東京の大問屋街として発展。馬喰町一帯は、多くの旅人が訪れる町であったが、「公事」の廃止や、交通手段の変化などから次第に旅館業は衰退、その一方で問屋業は発展し、特に衣料品の問屋が増え、横山町とともに、東京有数の問屋街となった。関東大震災による甚大な被害を受けた後に、区画整理が行われ、現在の骨格であるインフラが形成される。その後、下層を問屋の店舗とし、上層に異なる用途のフロアを構成する雑居ビルの問屋建築³⁾が普及したことでビル化が進んだ。

4.4 2000年代以降

ビル化が進み現在の様相の基盤が形成された後、1990年代、問屋産業の衰退や長期的な不況と、東京都心で大規模オフィスビルの供給が行われた⁴⁾ことで、馬喰町・横山町問屋街にも空洞化が生じた。

同2003年、神田・日本橋地域を中心に「CET (central east tokyo)」という団体が発足し、空き物件を活用したアートイベントが2010年まで開催され、同エリアにリノベーションの展開と新たな店舗進出がみられた。

5. プログラム

5.1 提案

各小売り店舗にとって外部化された倉庫である問屋街。その問屋街に集積される不良在庫に着目し、服飾業界の大量廃棄問題に逆行する服飾の再生を行う施設を提案する。

<用途>

- ・反毛/フェルト生地
- ・染織工房
- ・リメイク工房/フリーマーケット

物流の街として衣服を営む業者が集いやすいことから、「新品（問屋街の不良在庫）」、「中古品（回収業者）」を対象とする。

5.2 手法

a)ゾーニング計画

画一的な平面で構成される従来の工場に対して、スラブを高層化し、縦型ベルトコンベアを通した吹き抜けによって立体的な動線を計画し、垂直方向に空間的な流れを生む

b)各生産工程に求められる建築形態

工場に見られる鋸屋根のように、生産の場に求められる空間を形態構成の要素とする。

c)無柱空間によるフラットなつながり

センターコア方式の吊り構造によって再開発が進む雑居ビル群には少ない軒下空間を可能としつつ、4tトラックといった物流スケールに応答することを可能とした。

参考文献

- 1) 市瀬蓄之・貝島桃代、土岐文乃、岩田祐佳梨（2012）「開放性からみた問屋建築の転用デザイン 日本橋馬喰町・横山町周辺を対象として」日本建築学会大会学術講演梗概集 2012, pp. 537-538
- 2) 木暮環、岡田智秀、落合正行、久保凛一郎（2021）「歴史変遷からみた東京エリアにおける倉庫街形成に関する研究—東京都千代田区東神田・中央区馬喰横山地区を対象として—」
- 3) 圓山王国・真鍋陸太郎、村山顕人、大方潤一郎（2017）「転換期にある繊維問屋街の空間変容と再生の取り組みに関する研究—東京東神田・馬喰町地区と名古屋錦二丁目地区を対象として—」公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 vol.52 no.2 2017, pp161-168
- 4) 名所江戸百景 馬喰町初音の馬場、江戸都立図書館（最終閲覧日2024/11/05）
https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/portals/0/edo/tokyo_library/modal/index.html?d=5550
- 5) 三井住友トラスト不動産、このまちアーカイブス、「問屋街の歴史」（最終閲覧日2025/01/05）
<https://smtrc.jp/town-archives/city/nihombashi/p04.html>
- 6) 協同組合 東京問屋連盟（最終閲覧日2025/01/05）
<https://www.e-tonya.or.jp/about/index.html>
- 7) トコトンやさしい物流の本、鈴木邦成、日刊工業新聞社、B&Tブックス（最終閲覧日2025/01/05）
- 8) 株式会社日本総合研究所、環境省 令和2年度 ファッションと環境に関する調査業務 -「ファッションと環境」調査結果（最終閲覧日2024/01/05）
https://www.env.go.jp/policy/pdf/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf

服の停留所

－集積に着目した都市型産業建築の可能性－

DZ21021 金山哲也

【概要】

近年、インフラや社会的サービスといった都市構造の中で、ヒトとモノの関係性はどこか淡泊になっているように感じる。ヒトとモノの関係を都市風景と結び付けることで大量消費社会の動きを捉えることはできないだろうか考える。そこで繊維・衣服問屋街である横山町馬喰町問屋街を敷地に、「反毛」「染色」「古着・リメイク」の3つの方法によって服飾業界のサイクルへ溪流させる都市型産業建築を提案する。

【3つのサイクル】

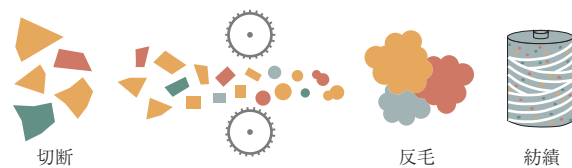
物流の街として衣服を営む業者が集いやすいことから、下の2つに着目する。

「新品（問屋街の不良在庫）」

「中古品（回収業者）」

問屋街に集積される不良在庫を3つの手法を通し、服飾業界の大量廃棄問題に逆行する服飾の再生を行う

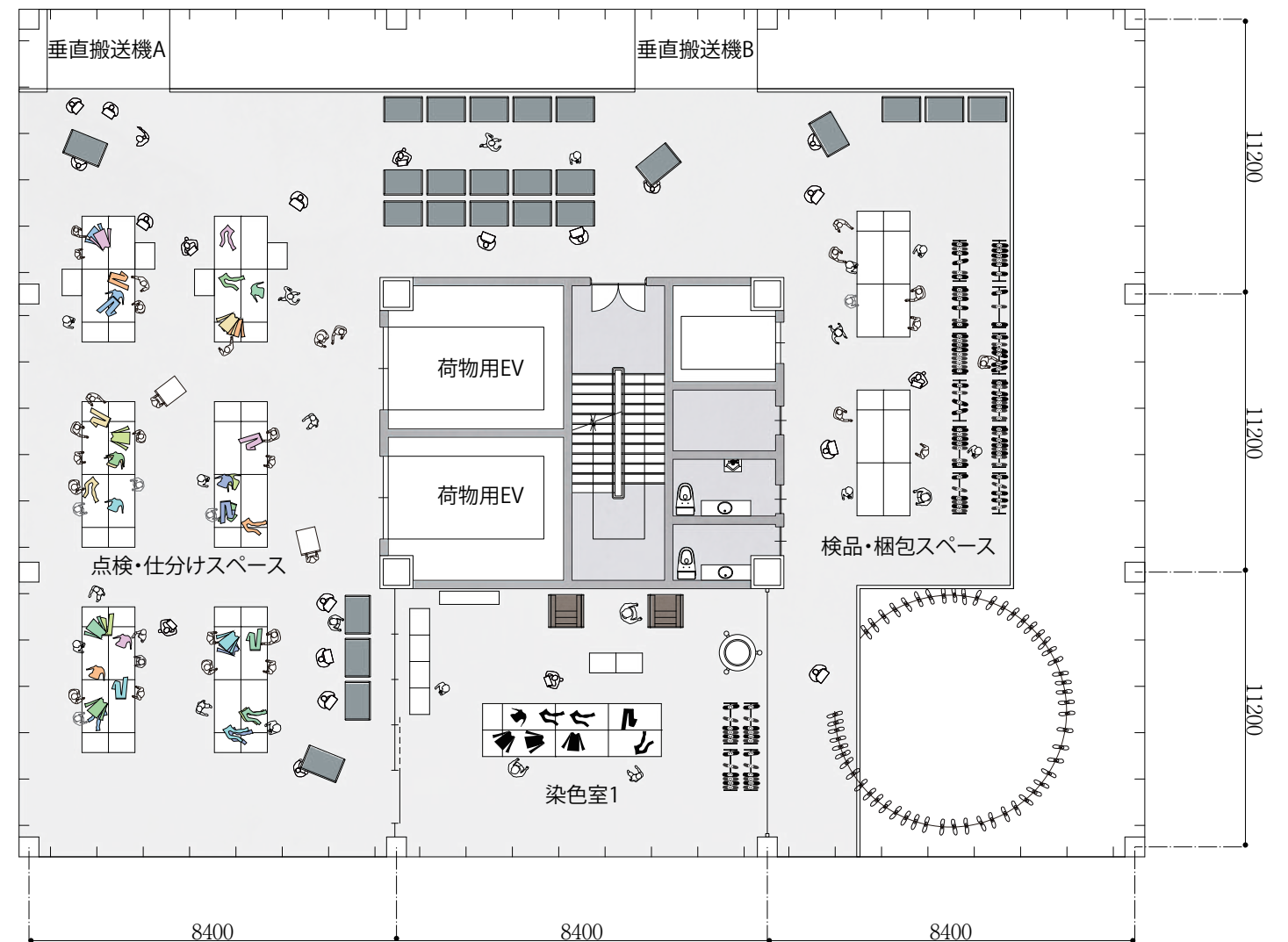
①反毛（フェルト生地、再紡績）



②染め直し



③リメイク・中古販売



6階平面図 1/200

